

# 新建福岡・NOW

第29号 2023.10.24

発行元  
新建築家技術者集団  
福岡支部事務局  
〒815-0041  
福岡市南区野間 3-9-20-4F  
[ケイ・プラッツ内]  
Tel/Fax 092-541-8128  
HP : shinken-fukuoka.net

5  
9

## 第7回仕事を語る会

語り手 渡邊美恵氏 [ 木の和(和み)設計一級建築士事務所 ]

### 1. 環境を豊かにするデザイン

今回お話された渡邊さんは、旧九州芸術工科大学を卒業後、百貨店の内装に携われ、イタリアでの駐在を経て、現在は九州地場の木材を使った建築設計をメインに活躍されています。その経歴は多岐にわたるように見えますが、「芸術工学」「環境」のテーマで見ると、活動の軸が見えてくるように思います。

芸術工学は名前からして領域横断的な分野です。それは一見、相反する「芸術」と「工学」を合わせて、その統合をベースに社会を構想しようとするものだからです。大まかに言えば、工学は現実の世界を計算可能なものとして表現・分析し、芸術は世界を言葉や絵・音楽などを用いた比喻や寓話によって表現し、新しい世界観・価値観を開きます。両者は、よく理系と文系で区別されますが、芸術工学は両者の思考法や表現の仕方を統合し、新しい社会の仕組みを実際に作り出そうとする営みだと言えます。

芸術工学は「デザイン」とも言われますが、渡邊さんも大学卒業後、最初のキャリアは関西の百貨店で主にレストランの内装デザインを手がけられたそうです。これもそこを訪れる人にとって快適で感動をもたらす空間を工学的に設計する、芸術と科学によって織り上げられるものといえます。紹介された写真には、洗練された調度や内装によって、その空間環境を豊かなものにする工夫を見ることができました。



### 2. 地域や人々の営みも含んだ環境へ

渡邊さんにとっては、その後のイタリアでの経験が大きく、現在の福岡での活動の転機となったそうです。それはイタリアの地方の人々が、百貨店があるような大都市ではなく、自分たちが住んでいる地域（コムーネ）こそを心から愛し、一番と考えていたことでした。そこには規模や先端性による優劣ではなく、人間がいかに良く生きるかについての知恵があり、それに触発されることで、渡邊さんもまたご自身が生まれ育った福岡への思いを馳せるきっかけを持たれたのではないかと感じました。

また日本に戻ってから手掛けられた工務店のPR活動のための、クライアントや関係者へのヒアリングや小物づくりも、建築を建てるだけにとどまらない人々の営みへの理解や、部材として使う木材資源への思いに繋がるプロセスだったように思えました。



渡邊さんのことを  
知りたくなった方は、  
「新建福岡 50周年記念誌」  
90頁もご覧ください

(次頁へつづく)

### 3. 地域・環境を回復させるためのデザイン

そうした活動の到達点として、木材・建築からそこで暮らす人々の生活や地域を支えようとする木の和設計さんの建築活動があるようです。また渡邊さんは、九州森林ネットワークの理事もされ、更新が滞り荒廃の危機にある森林の木材を活かした建築を作られています。かつて経済合理性に従って植えられた杉や檜が、次の時代の経済合理性によって輸入材にとって代われ、地域の森林が荒廃する。そうした荒廃から回復するために、その木材が現に価値を持った建築材として使われ、新たな森林の循環を生み出す。それを私たちは渡邊さん設計のショップ「Ta-te」の見学において垣間見ることができました。

このように渡邊さんの建築・活動には、デザインを機能的で洗練させるだけでなく、人間を取り巻く森林や地域の産業・人々の日常生活も含めた環境へ広げていく可能性を強く感じました。（報告：笹野正和/一般）

#### 仕事を語る会を前に、渡邊さん設計の work&caf 「Ta-Te」を見学

今回の仕事を語る会は「木」や「和み」の魅力を語って頂けるという事で、主に木造建築に携わる設計をさせて頂いている私としては、とても興味深く拝聴させて頂きました。講演の前に、今回語り手で有られます木の和設計の渡邊様が設計された、福岡市中央区にある work&café 「Ta-Te」を実際に見学させて頂き、おいしいスコーンとオーガニックなドリンクを頂きながら、直接渡邊様と話す機会も頂き、有意義な時間を過ごさせて頂きました。店内は特徴的な半円状のガラス張り空間が道路側に開放されており、この曲線美を「木」の持つ柔らかさや和みと上手く架け合わせるにより、そこに居るだけで心が安らぐような居心地のいい空間を感じる事ができました。



渡邊様は日本のみならずイタリアでも活動されたりと、非常に人生経験豊かな方で、そういう方が行き(域き)ついた設計にはやはり深みがあります。地産地消の精神ですとか自然との向き合い方等々、勉強させられる事が沢山ありました。かと思いきや木の表面を徐々に硬化させるセラミック系の塗料の事も教えて頂いたり、最先端の知識にも長けており、常に情報を入れておられるのだろうなと感心させられっぱなしでした。

私も同じ福岡の地で設計をさせて頂いていますので、出会いを大切にすべく、この会や新建の方たちと深く交流を図り、渡邊様や色々な設計者の心やアイデアを私自身五感で感じながら、今後の仕事に活かしていけたらと思います。（報告：道下孝幸）

#### 6月13日、「YouTubeで勉強しよう！」会は 思い思いの一品を持ち寄り開催

天神ビックバン解説等福岡市の最近の開発に関する動画では、これから福岡市がどうなっていくのか？の全体像をあらためてお勉強。イムズ跡地の映像には「なくなって寂しい」という声があがっていました。

盛り上がったのは「福岡歴史発見！」という番組。福岡市の歴史を軽妙に語るその博識さたるや。知らなかったことばかりで、感心することしきりでした。その後福岡市の歴史という話題から発展して、スタンフォード大学が公開している日本の古地図を大坪さんが見せてくださいました。今はなくなった古い地名を肴に、皆で福岡市の昔話をしたのも楽しかったです。

他にも、設計した建物の動画や、好きな音楽の動画などなど。普段あまりYouTubeをみる事がなかったけれど、この会で一億総クリエイター時代を実感しました。動画を共有しあうことで、「世界がぐっと広がった！」会となりました。（報告：山口美恵）





数年前から関わり始めた沖縄案件の際に、お土産に貰ったパイナップルのヘタの栽培を始め、パッションフルーツやドラゴンフルーツも気にいって事務所の屋上で育てていました。2年目は中々大きくなり、冬はビニールを掛け室内で大事に育て、ようやく3年目の冬を迎えた時に、仕事の忙しさにかまけて放ったらかしにしたら、全滅でした…。

今も懲りずにパッションフルーツなど育てていますが、最近の気温の変化に付いて行かず、南国の植物なのに30度を超えると花を付けなくなる?という気まぐれに悩んでいます。

去年は偶然熊本の妹の知り合いに青パパイヤを貰いました。作って見たけど売れないし、ビニルハウスの燃料代はかかるしどうしたら良いのだろうか?という相談も含め。食べ方もわからない南国の野菜?フルーツ?を放っておいたのですが、ネットで調べてみるとなんか面白そう。タイの友人に聞いてみたり紹介してもらったタイ料理の方に聞いて、早速皆で作って食べてみると、ん?!なかなか美味しい!!

さっそく春に種を買って植えて見たけど、なかなか芽も出さずどうしたものかと? そうこうしていると、コロナもあって3月頃から着工を延期していた石垣島のマンションの現場が始まりました。杭検査で現場に行った際に現場のおっちゃんとおパパイヤの話したら、見てごらん現場の周りにもいっぱいパパイヤの実が生っているじゃないかと。これまで全く目に入っていませんでした! 図々しくも近所の方に実を分けて貰い、お土産にしました。



ちょうど実家の荒れた畑をどうしようかと思っていたら、調べてみると茨城のやぎぬま農園さんという所が寒冷地でも育つパパイヤ園を営んでいると知り、早速苗を購入して植えてみました。山間地の5月の遅霜にも少しやられましたが、なぜかその年からコメリでもパパイヤ苗を販売。安い!追加で植えて大事に育てると、気温の上がる7月頃からメキメキ成長して、あっという間に夏には3mを超える大木となる姿は面白いです。一気に実家の周りは南国の畑。散歩で通るご近所さんから「なんば植えとっと〜」といつも笑われています。



レシピを調べていくつか作って見たら、ツナサラダや炒め物は当然ですが、意外とおでんなどの煮物が合いました!ココナツミルクで煮るとグリーンカレー。酵素の王様パパイヤは魅力がいっぱいでした、今年は夏の暑さと土づくりの怠慢で?収穫はイマイチでしたが、来年に向けて10月末に因島で開催の尾道パパイヤのセミナーに勉強しに行ってきます。



今年から宮古島の仕事も始まり、石垣や宮古や沖縄の方にパパイヤ畑の写真を見せると、出来るんですか!と驚かれます。偶然にもこの9月から実家の山鹿市が宮古島市と友好都市となった縁を知りまたびっくり。地元のお茶を持って市役所訪問したり交流会に参加予定と、不思議な縁を感じています。

一昨年からは仕事と農業の2拠点生活を準備していましたが、日々の仕事に追われてなかなか前に進みません。その間にも荒廃する一方の畑や筍山を憂いながら、日本蜜蜂のお世話をする日々が続いています。夢は炭窯で炭を焼く事ですが、野焼きの炭窯を作れる方も殆んど居なくなった今日、廃れゆく技術と伝統の継承に想いを馳せる日々です。 鹿瀬島隆之

鹿瀬島隆之さん から



大野幸代さんへ

# 「天神ビッグバン～これまでとこれから～」勉強会

講師に、西日本新聞社の座親伸吾さんをお招きし、天神ビッグバンの現状、背景、今後についてお話いただきました。会場には新建会員19名＋一般24名、Zoomでの参加が会員6名＋一般6名、合計55名と多くの参加があり、関心の高さが伺えました。



## ▼当日資料のひとつ 西日本新聞 2023年4月6日抜粋



ビル名・再開発エリア	完成予定年月
1 天神ビジネスセンター	21年9月
福岡地所	6.1万㎡
2 福岡大名ガーデンシティ	22年12月
積水ハウス、西日本鉄道など	9.1万㎡
3 (仮称)ヒューリック福岡ビル	24年12月
ヒューリック	2.5万㎡
4 (仮称)新福岡ビル	24年12月
西日本鉄道	14.7万㎡
5 (仮称)天神1丁目北14番街区ビル	25年3月
日本生命保険、積水ハウス	3.9万㎡
6 (仮称)住友生命福岡ビル・西通りビジネスセンター	25年5月
住友生命保険、福岡地所	4.2万㎡
7 (仮称)天神1-7計画(イムズ)	26年3月
三菱地所	7.4万㎡
8 (仮称)福岡市役所北別館・MMTビル跡	26年6月
福岡地所	6.3万㎡
9 福岡バルコ・新天町商店街	30年度
バルコ、新天町商店街など	—
10 福岡中央郵便局・イオンショッピング福岡店	郵便局跡は30年度
日本郵便、イオン九州	—
11 天神1丁目15・16番街区	—
西日本鉄道など	—
12 博多イーストテラス	22年8月
NTT都市開発、大成建設	2.9万㎡
13 福岡東総合庁舎跡	24年3月
JR九州、福岡地所など	2.1万㎡
14 西日本シティ銀行本店本館	26年1月
西日本シティ銀行、福岡地所	7.5万㎡
15 西日本シティ銀行本店別館・事務本部ビル	28年9月
西日本シティ銀行	—
16 博多駅空中都市プロジェクト	28年末
JR九州	5万㎡
17 (仮称)キャナルシティ博多新イーストビル	—
福岡地所	—

## ▼講演～質疑応答部分を大原佳瑞重さんがファシリテーショングラフィック（ファシグラ）で記録していただきました

## ◆感想

天神ビッグバン勉強会、参加させていただきありがとうございました。講演を聴いて天神BBについて、分かっているようでしっかり分かっていなかったと自分自身感じました。前福岡市長は天神地区の容積率の緩和を高さ制限が理由で実現出来なかったが、高島市長は政権に働きかける事で実現した事など、知らなかった事でした。また講演後の意見交換の中で、様々な天神BBに対する意見が出ていて色々な視点があるなと思いました。



これからも、福岡市都心がどのように変化していくか、また市民にとって良い街になっていくのか、注目していきたいと思います。（報告：中島幸秀/一般）

## ■感想

先日はビッグバンのセミナーを開催頂き誠に有難うございました。天神地区のビッグバンについては多くの報道がありよく耳にしておりましたが、詳しくは理解できておりませんでした。再開発で容積率を緩和して高層の建物が建ち並び天神地区の様子がこれまでと一変し、福岡の経済波及効果が見込める街になると思っていました。

セミナーでは再開発のきっかけが明治通りの古いビルの建替えと伺い驚きました。天神地区に高層のオフィスビルを民間の力を借りて増やしていき、サミットやオリンピックを誘致する為に必要な高級ホテルを設けるなど動き出している現実を知ることができました。

これまで福岡は港町でファッションや商業を中心とした経済都市で発展し古くからの伝統行事や食文化も豊かです。これまでと同様に「住みたいまち」として魅力のある街であって欲しいと思います。東京の千代田区のように住民登録者数が少なく、オフィス街にはなって欲しくはありません。（報告：馬場信介/新会員）

## アンケートに寄せられたご意見、感想から、主なものをご紹介します。

- ・ミニ東京が作られることを知った
- ・福岡都市圏に夢のある都市計画が無いことが残念
- ・高島市政の方向（再開発、大企業誘致、東京化）は市民にとって暮らしにくいまちづくりへ繋がる
- ・保存でも更新でもない、新しい文化、都市の形を構想する機会だったかもしれないのに
- ・一気に建て替えが進むことのデメリット
- ・周辺都市、特に北九州市などと共に生きてゆく思想が欠如している
- ・時限措置という手法、「アジアのリーダー」という言葉に違和感を感じた
- ・「街は記憶の集積」という言葉が印象的だった
- ・「街づくりは住民の議論から」という言葉が印象的だった
- ・今日をきっかけに新しい動きを作っていければと思った



## 今後も 天神ビッグバンについて知る機会を

今回の勉強会で、みなさん関心があり、注視していることを共有することができました。今回で終わらず、まち歩きやワークショップなど、天神の地域性、歴史を知る機会なども企画していきたいと話しています。その際は、たくさんのご参加をお待ちしています！





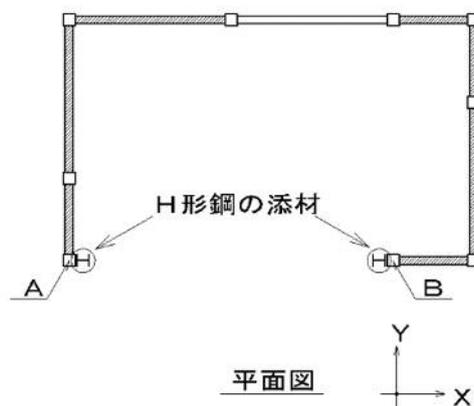
これまで当方に届いた質問と、それに対する私なりの回答を記述します。あくまで私見による回答です。読者の皆様は、この内容の是非を各自で判断して設計に活かして下さい。

## ■ 質問

木造建物で X, Y 方向共 4 号建物として、壁量、平面バランス、金物配置を行なったとします。

図のような平面形状を持つ建物で、図面下部の開口が大きいため、柱 A, B は鉛直荷重が大きく、単独の木柱ではその荷重負担には無理があるため、H 形鋼をその木柱に沿わせて鉛直荷重のみ負担させました。

この計画で 4 号建物として確認申請に出すことは可能でしょうか？



## ■ 回答

鉛直部材を木造とは別の構造材を用いた場合、混構造とみなされます。

よって、4 号建物扱いは不可となります。

ちなみに、大梁の一部を鉄骨梁とするのは可能です。

混構造と扱わなくて良いでしょう。

今回は鉛直材の柱の補助として鉄骨柱を使用しているので、許容応力度設計、または、許容応力度等設計のルートになります。

(株式会社川崎構造設計 川崎薫)

## 偲ぶ会 開催予定

この夏 7 月に残念ながら、新建福岡支部の活動に長らく積極的に関わってこられた矢野安希子さんが他界されました。今年は 3 月にも古川博さんも亡くなられたことあり、故人にご縁のあった方々にお集まり頂き、ささやかな「偲ぶ会」の開催を予定しています。11 月末～12 月初めの日程で調整していますので、またご報告をいたします。

## 編集後記

次の原稿とりまとめ担当の方に引き継ぎを上手くできる様に、久しぶりの機関誌の担当をやってみました。新会員の皆さんや会員外の方も積極的な方が多く、急なお願いの原稿依頼もスムーズに行きまして、ご協力大変ありがとうございました。リレーエッセイや支部総会の準備まであり、この 10 月はなかなか大変でしたが、皆さんに頂いた原稿が、月成さんの手によって素敵な機関誌になる事がいつも楽しみです。次の担当は吉田くんをお願いしたいかなと(鹿瀬島)

(原稿とりまとめ：鹿瀬島 レイアウト：月成)